

2012年度(2013年3月期)
第2四半期決算説明会



2012年11月1日
アズビル株式会社

※ 次の通りセグメント名称を略称で記述しております。

BA: ビルディングオートメーション

AA: アドバンスオートメーション

LA: ライフオートメーション

※ 数値は表示単位未満四捨五入しております。

1. 2012年度 第2四半期決算報告	P. 3
2. 2012年度 通期業績計画	P. 15
3. 株主への利益還元	P. 20
4. まとめ	P. 22
5. 参考資料	P. 25



1. 2012年度 第2四半期決算報告

※ 2012年度より、従来「その他」に含めておりました事業の一部(検査・測定機器の輸入・仕入販売等)を、「AA事業」の区分に変更しております。本資料における前年同期との比較及び推移につきましては、前年同期の数字を変更後のセグメント区分に組替えて表記しております。

連結経営成績

《対前年同期・期初計画》

受注高

受注高は、前年同期に計上された大型契約※の影響を除くと、ほぼ前年同期と同水準の1,268億円となる。 ※ BA事業において複数年にわたる大型のサービス契約(市場化テスト)を複数一括計上。

売上高

AA事業が、主に装置メーカー関連市場の需要回復の遅れの影響を受け減収となるが、BA、LA事業が伸長し、前年同期比1.5%増加の1,048億円となる。

営業利益

営業利益は、期初計画の35億円を達成。AA事業が装置メーカー向け製品需要の低迷で減収・減益となったが、BA、LA事業における総合的なソリューション提供や体質改善取り組みにより目標利益を確保。

[単位:億円]

	2011年度 2Q累計		2012年度 2Q累計				
	実績 (A)	実績 (B)	対前年同期増減		期初計画 (2012/5/8) (C)	対期初計画増減	
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%
受注高	1,385	1,268	△ 117	△ 8.5%			
売上高	1,033	1,048	15	1.5%	1,060	△ 12	△ 1.2%
営業利益	47	35	△ 12	△ 24.6%	35	0	1.4%
営業利益率	4.6%	3.4%	△ 1.2		3.3%	0.1	
経常利益	47	33	△ 14	△ 29.2%	33	0	0.2%
四半期純利益	24	15	△ 10	△ 39.1%	16	△ 1	△ 6.8%

営業外・特別損益

《対前年同期》

特別損益に関し、前年同期には特別利益で事業譲渡益(約2億円)を、特別損失で、東日本大震災による災害損失(約△2億円)をそれぞれ計上。

[単位:億円]

	2011年度	2012年度		
	2Q累計	2Q累計		
	実績 (A)	実績 (B)	対前年同期増減	
			(B) - (A)	%
営業利益	47	35	△ 12	△ 24.6%
営業外収益	4	3	△ 1	△ 25.5%
営業外費用	5	6	1	19.6%
経常利益	47	33	△ 14	△ 29.2%
特別利益	3	0	△ 3	△ 99.1%
特別損失	4	1	△ 2	△ 62.4%
税引前利益	45	32	△ 14	△ 30.3%
法人税等	19	16	△ 4	△ 18.8%
少数株主利益	2	1	△ 1	△ 34.0%
四半期純利益	24	15	△ 10	△ 39.1%

1. 2012年度 第2四半期決算報告



セグメント別業績

《対前年同期・期初計画》

BA

前年同期に複数年にわたる大型サービス契約を一括計上していた反動で、当期受注高は前年度比16.1%減少の639億円となる。売上高は、主に海外が伸長し前年同期比2.2%増加の453億円となる。セグメント利益は、建築市場低迷による投資の縮小や競争激化が単価に影響し、前年度比では24.0%減少となるが、省エネソリューション提案等による売上確保が奏功し、期初計画を上回る17億円を計上。

AA

主に半導体やその他関連の装置メーカーの市場回復が遅れ、制御機器の需要が低調に推移した結果、受注高は前年同期比3.3%減少の453億円、売上高は1.8%減少の426億円となる。セグメント利益は、主に減収による影響で前年同期比21.2%減少の19億円となる。

LA

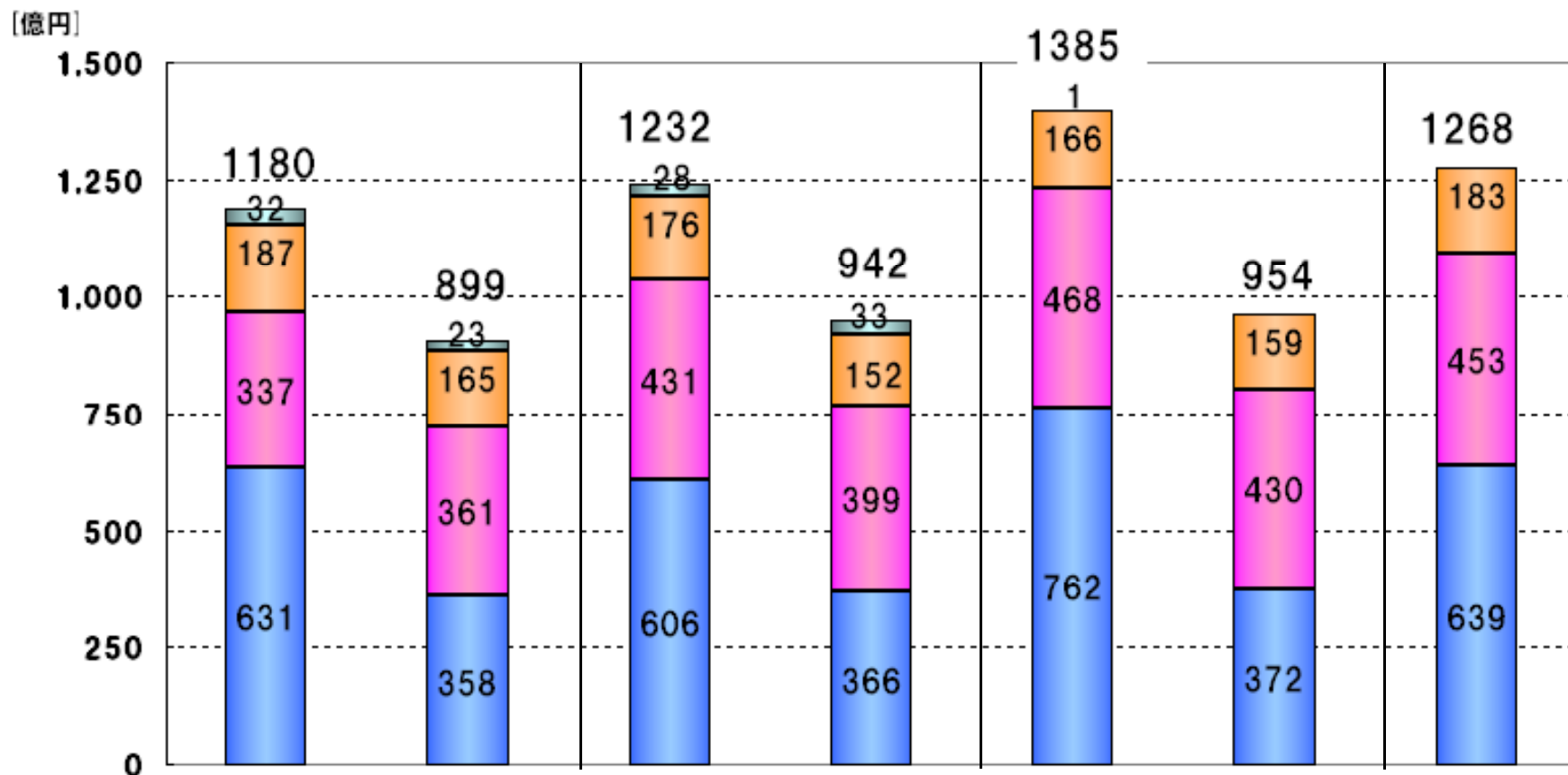
主に都市ガス・水道メータが増加し、受注高は前年同期比10.5%増加の183億円、売上高は前年同期比8.1%増加の175億円となる。セグメント損失は、全館空調システムの販売拡大に向けた先行投資を含め、LA事業全体としては期初△2億円を計画するが、ガスメータ販売の増益等で改善し、△1億円となる。(前年度は△0億円。)

[単位:億円]

		2011年度 2Q累計		2012年度 2Q累計					
		実績	実績 セグメント変更週及 (A)	実績 (B)	対前年同期増減		期初計画 (2012/5/8) (C)	対期初計画増減	
					(B) - (A)	%		(B) - (C)	%
BA	受注高	762	762	639	△ 123	△ 16.1%	460	△ 7	△ 1.4%
	売上高	444	444	453	10	2.2%	15	2	15.8%
	セグメント利益	23	23	17	△ 5	△ 24.0%	3.3%	0.6	
	%	5.1%	5.1%	3.8%	△ 1.3				
AA	受注高	449	468	453	△ 16	△ 3.3%	440	△ 14	△ 3.2%
	売上高	410	434	426	△ 8	△ 1.8%	22	△ 3	△ 11.6%
	セグメント利益	24	25	19	△ 5	△ 21.2%	5.0%	△ 0.4	
	%	5.8%	5.7%	4.6%	△ 1.1				
LA	受注高	166	166	183	17	10.5%	170	5	3.1%
	売上高	162	162	175	13	8.1%	△ 2	1	-
	セグメント利益	△ 0	△ 0	△ 1	△ 1	-	△ 1.2%	0.4	
	%	△ 0.3%	△ 0.3%	△ 0.8%	△ 0.5				
その他	受注高	21	1	0	△ 0	△ 14.8%	1	△ 1	△ 53.0%
	売上高	25	1	0	△ 0	△ 13.4%	0	0	-
	セグメント利益	1	0	0	0	118.8%	0.0%	23.8	
	%	3.5%	9.4%	23.8%	14.4				
連結	受注高	1,385	1,385	1,268	△ 117	△ 8.5%	1,060	△ 12	△ 1.2%
	売上高	1,033	1,033	1,048	15	1.5%	35	0	1.4%
	営業利益	47	47	35	△ 12	△ 24.6%	3.3%	0.1	
	営業利益率	4.6%	4.6%	3.4%	△ 1.2				

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

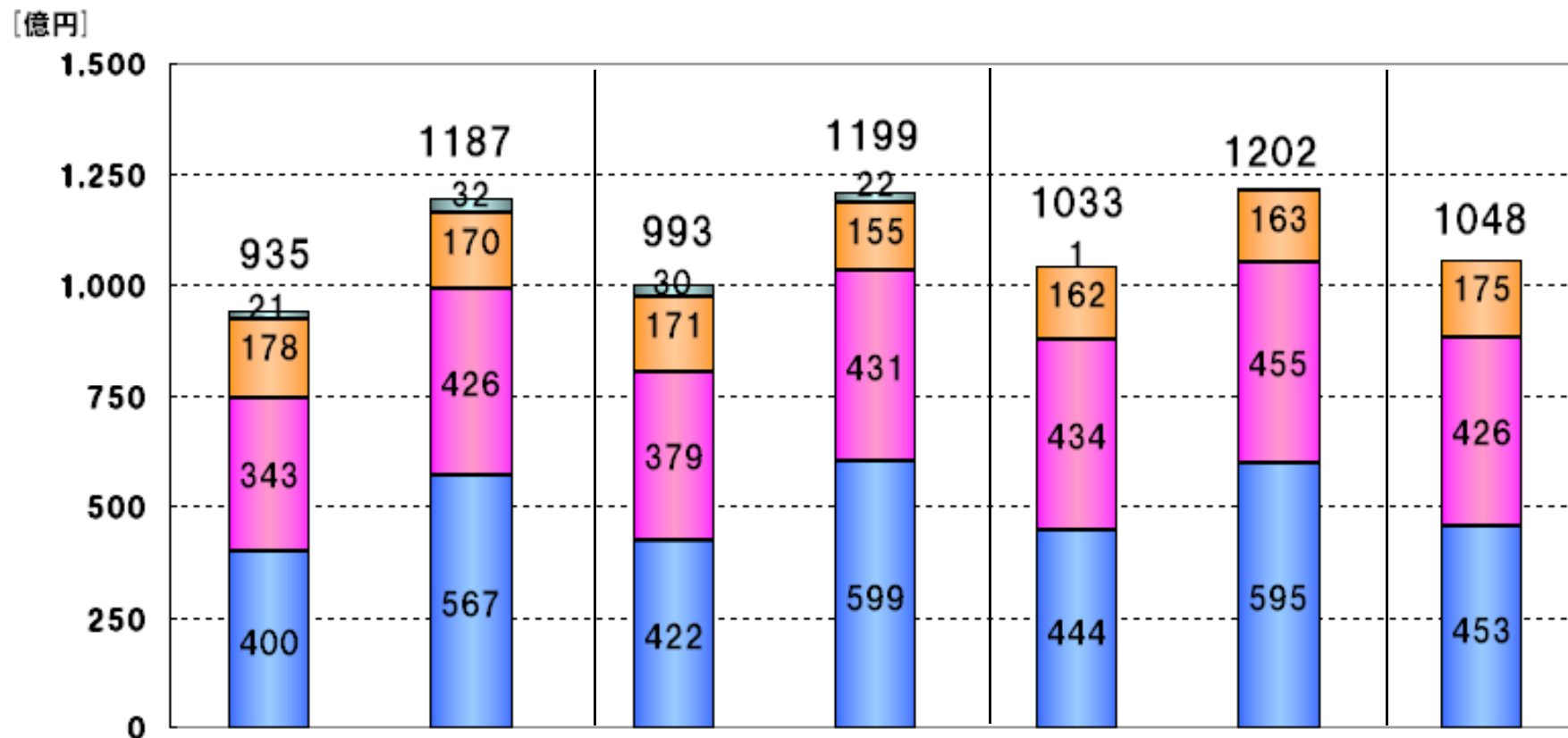
[参考] セグメント別受注高 推移



	2009年度 上期	2009年度 下期	2010年度 上期	2010年度 下期	2011年度 上期 <small>セグメント変更適及</small>	2011年度 下期 <small>セグメント変更適及</small>	2012年度 上期
BA	631	358	606	366	762	372	639
AA	337	361	431	399	468	430	453
LA	187	165	176	152	166	159	183
その他	32	23	28	33	1	0	0
連結	1,180	899	1,232	942	1,385	954	1,268

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれております。

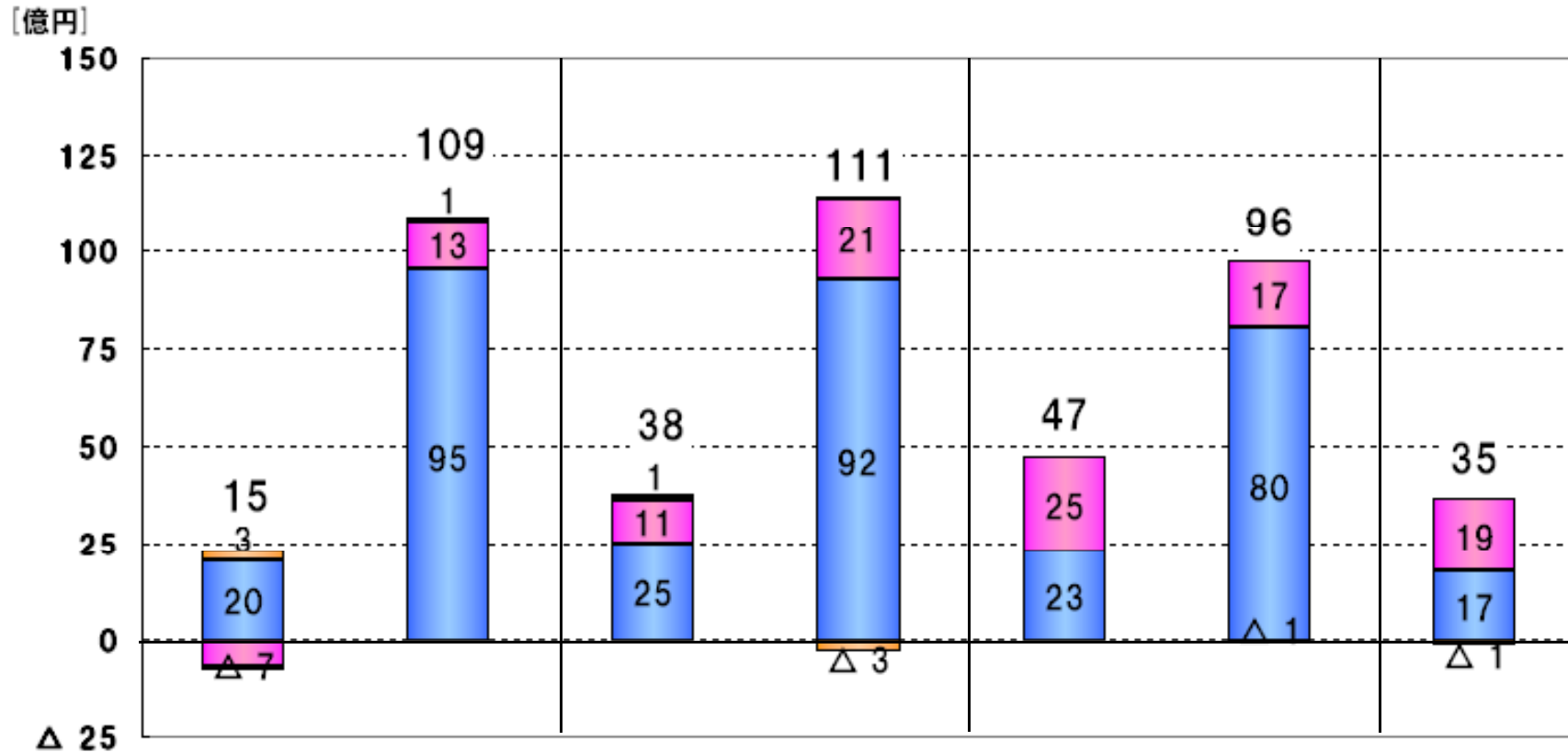
[参考] セグメント別売上高 推移



	2009年度 上期	2009年度 下期	2010年度 上期	2010年度 下期	2011年度 上期 <small>セグメント変更遡及</small>	2011年度 下期 <small>セグメント変更遡及</small>	2012年度 上期
BA	400	567	422	599	444	595	453
AA	343	426	379	431	434	455	426
LA	178	170	171	155	162	163	175
その他	21	32	30	22	1	0	0
連結	935	1,187	993	1,199	1,033	1,202	1,048

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれております。

[参考] セグメント利益(営業利益) 推移



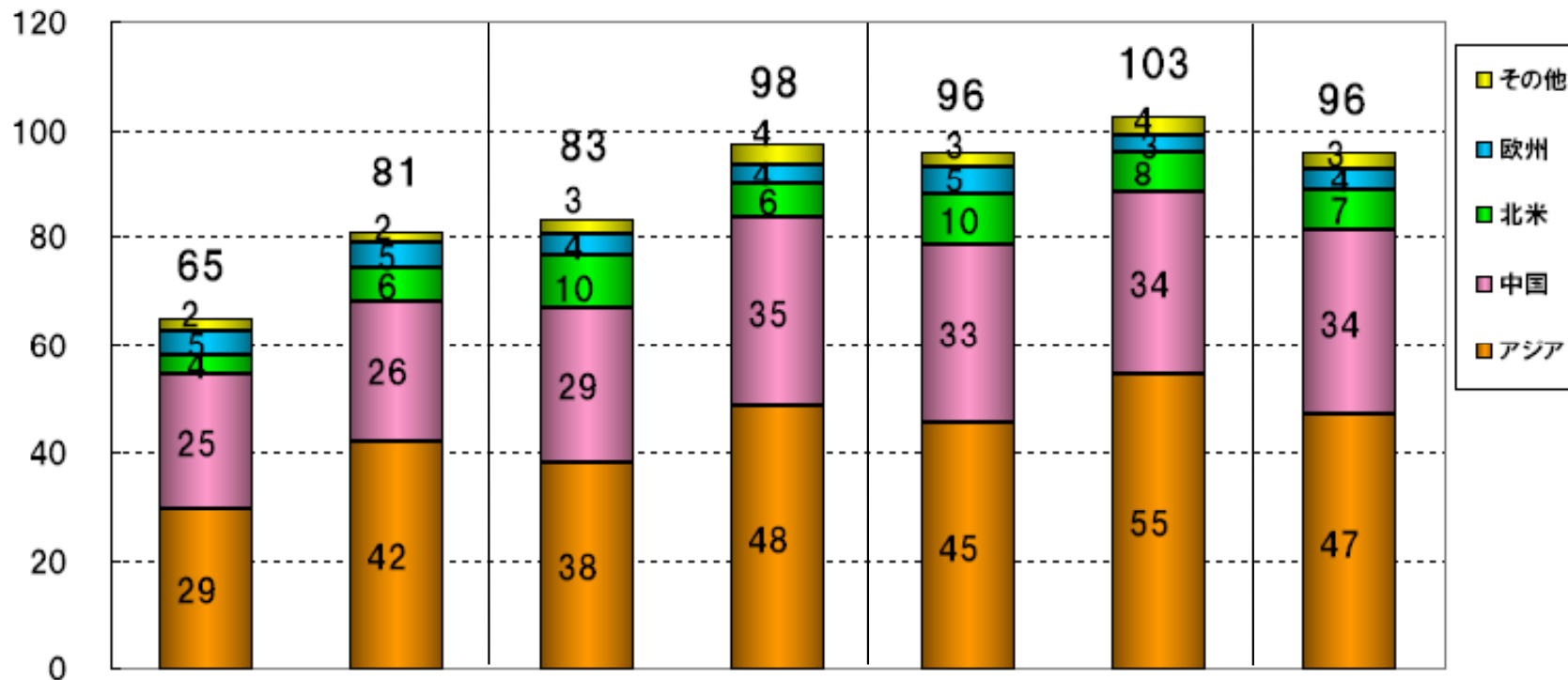
	2009年度 上期	2009年度 下期	2010年度 上期	2010年度 下期	2011年度 上期 <small>セグメント変更適及</small>	2011年度 下期 <small>セグメント変更適及</small>	2012年度 上期
BA	20	95	25	92	23	80	17
AA	△7	13	11	21	25	17	19
LA	3	1	1	△3	△0	△1	△1
その他	△1	0	1	1	0	△0	0
連結	15	109	38	111	47	96	35

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれております。

海外売上高

- リーマンショック以降、円高の影響があったものの着実な事業成長を続けてきたが、直近では半導体やその他製造装置メーカー向け需要低迷の影響を受ける。
- 2012年度上期の売上高は96億円。前年同期比では、BA事業が大型の現地資本地域開発ジョブを中心に増収、AA事業においては現場型計器・コントロールバルブの販売が伸長し、円高と装置メーカー向け製品需要低迷の影響を補う。

[億円]



(参考) 期間平均レート

	2009年度 上期	2009年度 下期	2010年度 上期	2010年度 下期	2011年度 上期	2011年度 下期	2012年度 上期
円/USD	95.60	93.65	91.36	87.79	82.02	79.79	79.78
円/EUR	127.44	130.36	121.24	116.28	115.05	111.11	103.49

※ 下期は年間平均レートとなっております。

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

※ 現地法人の事業年度につきましては、主に12月31日を期末日とする年度を採用しております。

1. 2012年度 第2四半期決算報告

連結財政状態

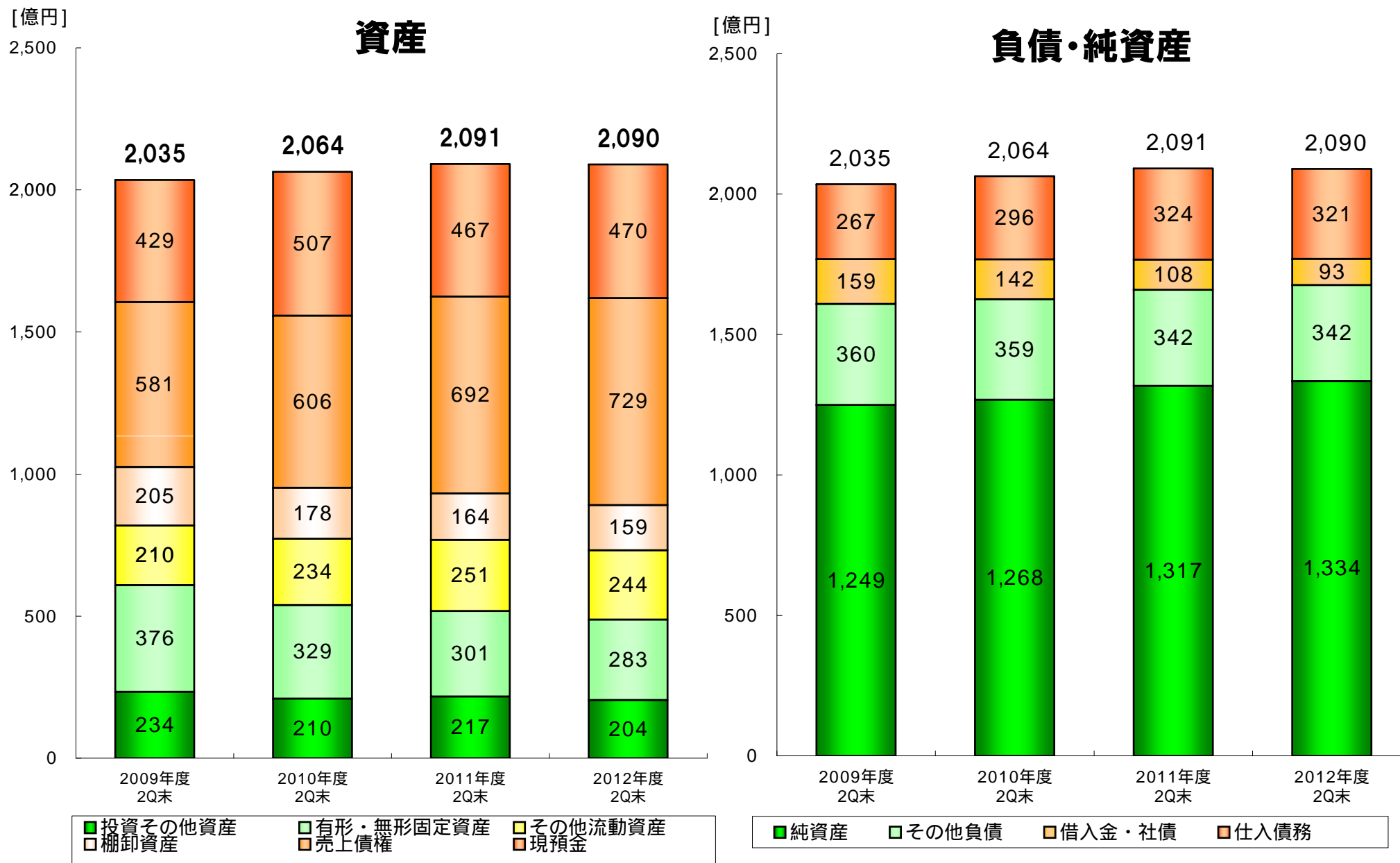


- 総資産は、売上債権の減少を主因として前期末比145億円減少の2,090億円となる。

[億円]

	2011年度		2012年度	増減	
	2Q末 (A)	4Q末 (B)	2Q末 (C)	対前年 同期 (C) - (A)	対前期 末 (C) - (B)
流動資産	1,574	1,730	1,602	29	△ 128
現金及び預金	467	451	470	3	19
受取手形及び売掛金	692	855	729	37	△ 126
棚卸資産	164	161	159	△ 5	△ 2
その他	251	262	244	△ 7	△ 19
固定資産	518	505	488	△ 30	△ 17
有形固定資産	250	241	237	△ 13	△ 4
無形固定資産	51	44	46	△ 4	2
投資その他の資産	217	219	204	△ 13	△ 15
資産合計	2,091	2,235	2,090	△ 1	△ 145
負債	774	884	756	△ 19	△ 128
流動負債	572	693	573	0	△ 120
仕入債務	324	372	321	△ 4	△ 51
短期借入金・社債	54	55	54	△ 0	△ 2
その他	195	266	199	4	△ 67
固定負債	202	191	183	△ 19	△ 8
長期借入金	54	47	40	△ 15	△ 7
その他	148	144	143	△ 4	△ 1
純資産	1,317	1,351	1,334	17	△ 16
株主資本	1,289	1,326	1,317	28	△ 9
資本金	105	105	105	-	-
資本剰余金	172	172	172	-	-
利益剰余金	1,038	1,075	1,066	28	△ 9
自己株式	△ 26	△ 26	△ 26	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	10	9	1	△ 9	△ 9
新株予約権・少数株主持分	18	15	16	△ 2	1
負債純資産合計	2,091	2,235	2,090	△ 1	△ 145

連結財政状態 推移



1. 2012年度 第2四半期決算報告

連結キャッシュ・フロー

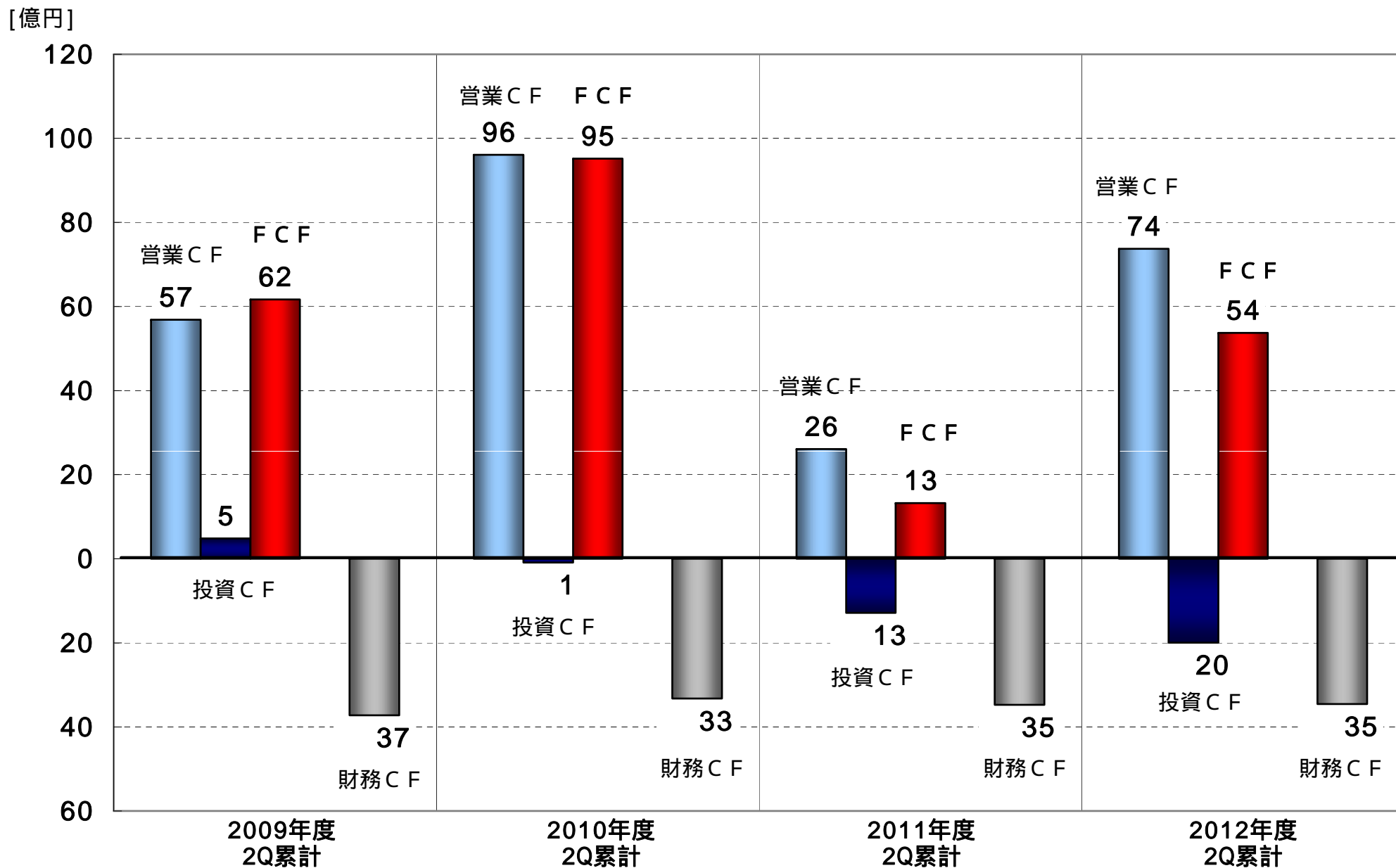


- 営業活動による資金の増加は、四半期純利益が減少したものの売上債権が減少したことに伴い、前年同期比48億円増加の74億円となる。
- 投資活動に使用された資金は、子会社株式の取得等を主として前年同期比7億の増加し、20億円となる。
- 財務活動に使用された資金は、前年同期と同水準の35億円となる。

[単位:億円]

	2011年度 2Q累計		2012年度 2Q累計		2011年度 通期 実績 【参考】
	実績 (A)	実績 (B)	対前年同期増減		
			(B) - (A)	%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	26	74	48	182.4%	56
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13	△ 20	△ 7	-	△ 35
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	13	54	40	305.5%	21
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 35	△ 35	0	-	△ 64
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	0	0	-	△ 2
現金及び現金同等物の増減額	△ 22	20	42	-	△ 45
現金及び現金同等物の四半期末残高	577	573	△ 3	△0.6%	554
(参考) 設備投資	14	14	△ 0	△3.1%	30
減価償却費	19	17	△ 2	△10.3%	40

[参考] 連結キャッシュ・フロー 推移



2. 2012年度 通期業績計画

※ 2012年度より、従来「その他」に含めておりました事業の一部(検査・測定機器の輸入・仕入販売等)を、「AA事業」の区分に変更しております。本資料における前年同期との比較及び推移につきましては、前年同期の数字を変更後のセグメント区分に組替え表記しております。

※ 業績予想は、本資料発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

事業環境認識

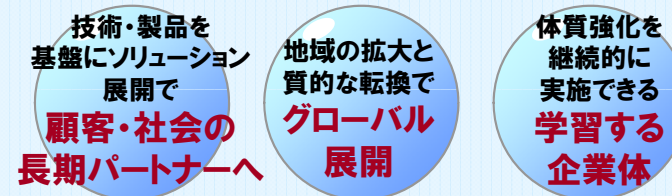
ライフサイクルでの顧客価値提供やエネルギー関連のソリューション提供は一定の成果を見ているが、足下では事業環境の厳しさ、不透明さが拡大。

欧州経済の低迷・先行き不透明感が中国を始めとする新興国経済の発展・設備投資に影響。これにより国内装置メーカー各社の業績が悪化し、素材産業の生産にも波及。国内景気減速が一段と明瞭になる。

- ▶ 半導体や電機電子部品等の関連装置メーカー向けの回復が遅れ、制御機器の需要が低迷
- ▶ 建築市場における投資は減速傾向にあるが、省エネルギー対策／ライフサイクル対応などの需要は底堅く存在



● 3つの重点ポイントの展開は確実に進捗・成果。今後、更に加速し、施策を押し進めていく。



● 施策展開を支える収益確保のための体質強化を継続・徹底する。

通期連結業績計画

通期連結業績計画を売上高2,250億円(期初計画比△50億円)、営業利益を135億円(期初計画比△15億円)に修正する。

- 下期における国内外景気の減速、事業環境回復の遅れを見込み、通期売上高目標を修正。
- 利益面では、減収の影響があるものの、上期より取組んでいる体質強化策の効果を見込む。

[単位:億円]

	2011年度		2012年度				
	通期実績 (A)	通期修正計画 (2012/11/1) (B)	対前年度増減		通期期初計画 (2012/5/8) (C)	対期初計画増減	
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%
売上高	2,235	2,250	15	0.7%	2,300	△ 50	△2.2%
営業利益	143	135	△ 8	△5.9%	150	△ 15	△10.0%
営業利益率	6.4%	6.0%	△ 0.4		6.5%	△ 0.5	
経常利益	146	131	△ 15	△10.2%	148	△ 17	△11.5%
当期純利益	85	74	△ 11	△13.1%	90	△ 16	△17.8%

2. 2012年度 通期業績計画

セグメント別業績計画

BA

通期の売上高は、海外売上の増加等で1,050億円(前年度比+1.1%)を見込む。セグメント利益は、プロジェクト管理の強化と省エネ・ライフサイクルソリューションの着実な進捗による利益率の改善で年間98億円(前年度比△5.1%)を見込む。

AA

装置メーカー向けの市場を主に設備投資の回復が遅れており、景気の先行きが引続き不透明なため、通期の売上高は880億円(前年度比△1.0%)を見込む。セグメント利益は、体質強化策の効果による下期の改善を見込み、42億円(前年度比+1.0%)を計画する。

LA

通期の売上高は、都市ガスメータの増収等で335億円(前年度比+2.9%)を見込む。利益面では、都市ガスメータ等で増益を計画するが、全館空調システム事業拡大のための先行投資を含めたLA事業全体としては△5億円(前年度△1億円)を見込む。

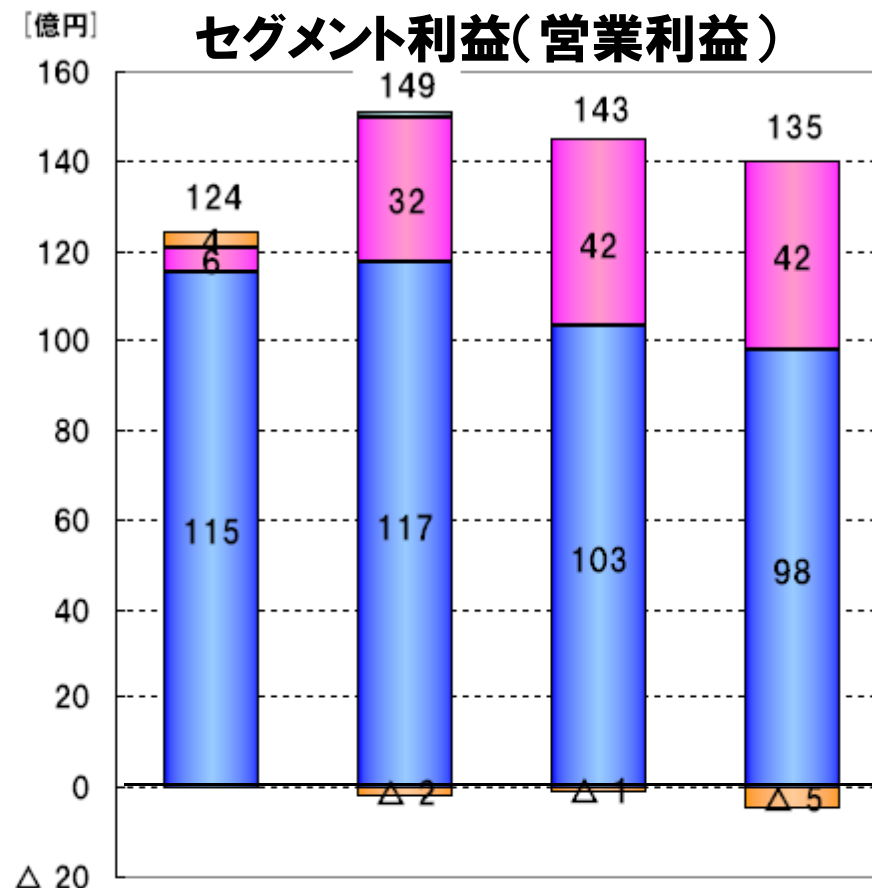
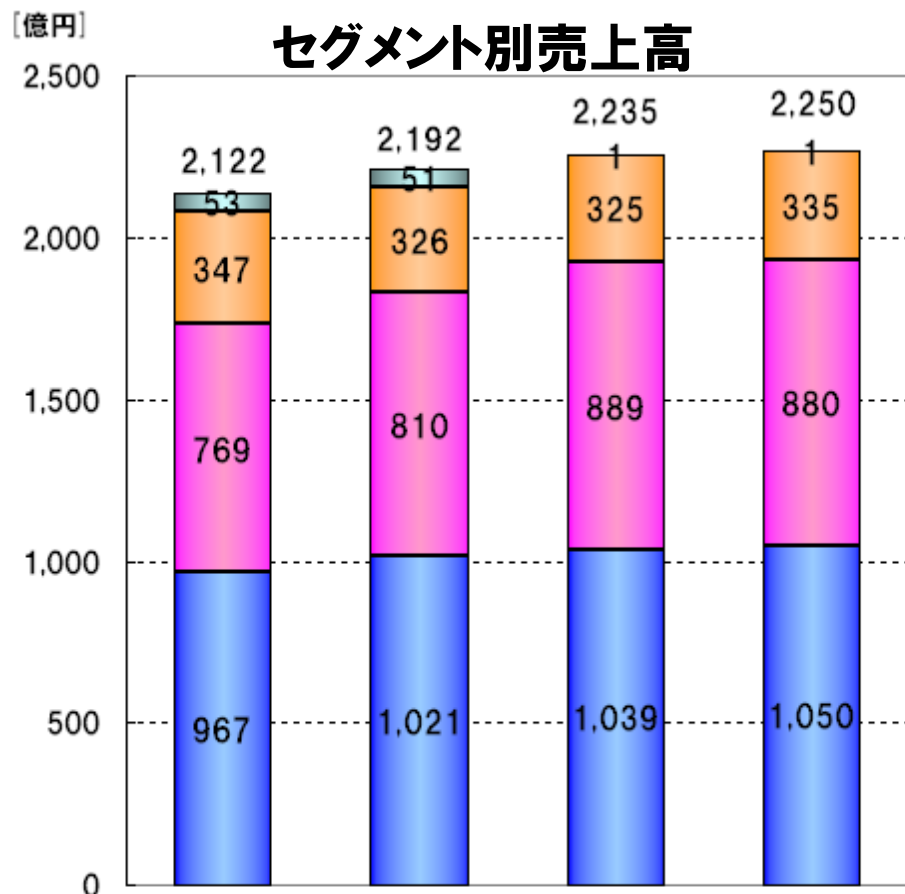
[単位:億円]

	2011年度		2012年度					
	通期実績	通期実績 セグメント変更週及 (A)	通期修正計画 (B)	対前年度増減		通期期初計画 (C)	対期初計画増減	
				(B) - (A)	%		(B) - (C)	%
BA 売上高	1,039	1,039	1,050	11	1.1%	1,070	△ 20	△ 1.9%
セグメント利益	103	103	98	△ 5	△ 5.1%	105	△ 7	△ 6.7%
%	9.9%	9.9%	9.3%	△ 0.6		9.8%	△ 0.5	
AA 売上高	841	889	880	△ 9	△ 1.0%	920	△ 40	△ 4.3%
セグメント利益	40	42	42	0	1.0%	50	△ 8	△ 16.0%
%	4.8%	4.7%	4.8%	0.1		5.4%	△ 0.7	
LA 売上高	325	325	335	10	2.9%	330	5	1.5%
セグメント利益	△ 1	△ 1	△ 5	△ 4	-	△ 5	-	-
%	△ 0.4%	△ 0.4%	△ 1.5%	△ 1.1		△ 1.5%	0.0	
その他 売上高	49	1	1	0	6.4%	1	-	-
セグメント利益	1	△ 0	0	0	-	0	-	-
%	2.9%	△ 8.0%	0.0%	8.0		0.0%	-	
連結 売上高	2,235	2,235	2,250	15	0.7%	2,300	△ 50	△ 2.2%
営業利益	143	143	135	△ 8	△ 5.9%	150	△ 15	△ 10.0%
営業利益率	6.4%	6.4%	6.0%	△ 0.4		6.5%	△ 0.5	

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

2. 2012年度 通期業績計画

[参考] セグメント別売上高、セグメント利益(営業利益) 推移



	2009年度実績	2010年度実績	2011年度実績	2012年度修正計画
BA	967	1,021	1,039	1,050
AA	769	810	889	880
LA	347	326	325	335
その他	53	51	1	1
合計	2,122	2,192	2,235	2,250

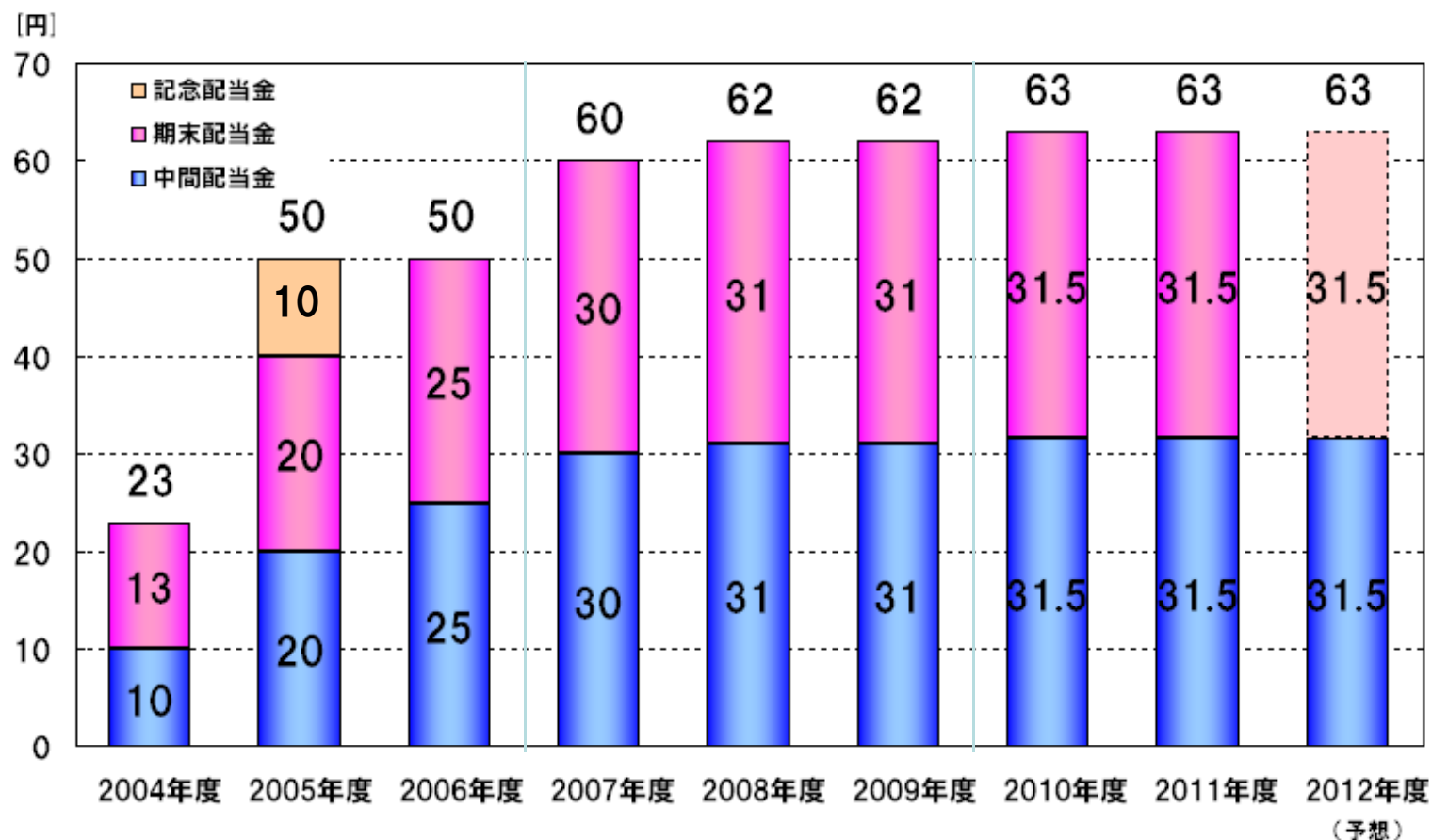
	2009年度実績	2010年度実績	2011年度実績	2012年度修正計画
BA	115	117	103	98
AA	6	32	42	42
LA	4	△ 2	△ 1	△ 5
その他	△ 0	1	△ 0	0
合計	124	149	143	135

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

3. 株主への利益還元

2012年度 中間配当・期末配当予想

● 株主への安定的な利益還元の方針を重視し、公表通り中間配当・期末配当とも1株当たり31.5円、年間で1株当たり63円の配当を予定する。



年間配当金	円	23	50	50	60	62	62	63	63	63
純資産配当率	%	1.7	3.5	3.2	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	※ 3.4
配当性向	%	45.6	37.6	34.6	41.2	48.5	73.4	58.7	54.6	※ 62.9

※ 参考値

4. まとめ

3つの展開の上期成果

- グローバル(海外・国内)で**ライフサイクルソリューション**事業に対する需要が増加。
- 足下では事業環境の厳しさ、不透明さが拡大。
- 収益確保のための体質強化と発展にむけた**3つの展開**を精力的に推進。

展開1

技術・製品を基盤に、ソリューション展開で、
「顧客・社会の長期パートナー」へ

～ azbilグループならではのエネルギー
 管理ソリューションに不可欠な商品が充実

エネルギー管理ソリューション

ENEOPT …… 建物から工場までをazbilグループの総合力でカバー

- 電力需給最適化支援パッケージ「ENEOPT™ pers R120」
- 中小規模建物、工場向けBEMSアグリゲータ対応エネルギー管理システム
- 空調設備の遠隔制御サービス「Web-Infalex」

経済産業大臣賞 受賞



展開2

地域の拡大と質的な転換で
「グローバル展開」

～ 省エネ、MROを切り口としたライフサイクル
 ソリューションビジネスの進展

- **コントロールバルブ事業の拡大に向けた販売体制を整備**
 ～ アズビルサウジアラビア有限会社(営業ライセンス取得、工場着工に向け準備開始)、
 インドにバルブ生産・供給拠点を確保
- **中国ローカル建物市場開拓のための現地企業への資本参加**
 ～ 北京銀泰永輝知能科技有限公司(子会社化、下期よりPL連結)、
 中節能建築能源管理有限公司(提案活動開始)



左:アズビル 曾禰社長、右:タラワット社 Al-Hashem副会長兼社長

展開3

体質強化を継続的に実施できる
「学習する企業体」を目指す

～ スキルアップによる個人・組織のケーパビリティ
 拡大と成長分野への投入

- 「アズビルアカデミー」創設
- azbilグループでの機能再編成

2012年度
～ 始まりにあたって

azbilブランドへの統一を実施

経営体制をあらたに

3つの展開を表明した

(顧客・社会の長期パートナー・グローバル展開・学習する企業体)

「人を中心としたオートメーション」をよりご理解・ご支援いただき、お客様とともに成長する起点とすることの表明として、グローバルで社名を変更し、azbilブランドを推進。

長期目標達成に向けた基本方針を継承しつつ、「人を中心としたオートメーション」の探求を掲げ、顧客関係、価値(範囲・質)の向上を目指し、3つの展開への取組み注力を表明。

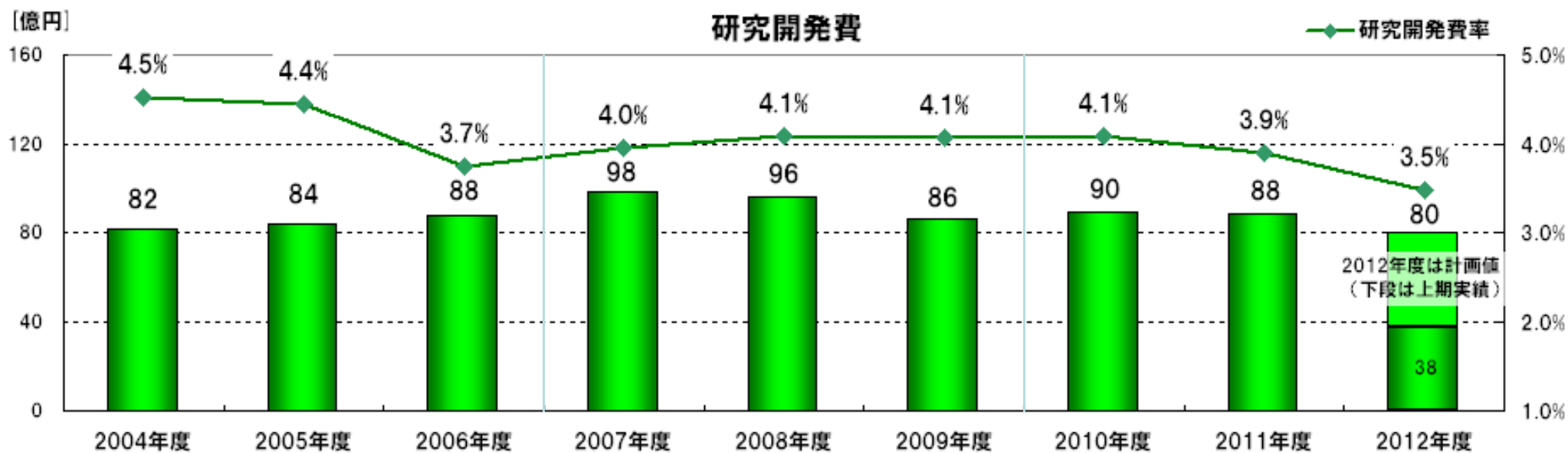
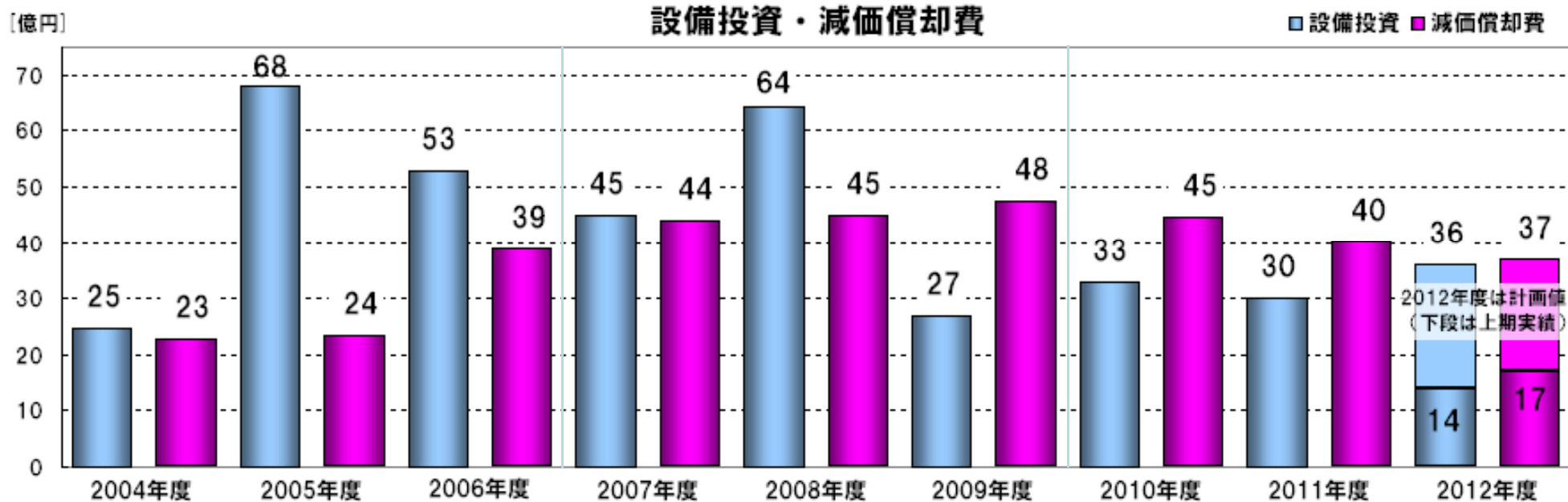
今後さらに、3つの展開の取組みを加速、進化させ、2013年度での成長を実現し、azbil制定10周年を迎えるための施策展開とそれを支える柔軟な組織運営・最適配置に向けた準備をすすめていく。

- エネルギー管理ソリューションの進化、グローバル展開の促進
- ソリューション展開のための製品ポートフォリオの充実・拡大
- 新たな成長領域開拓と地域拡大

ライフサイクルソリューションの観点から、azbilグループとしての多面的接点を活かし、お客様のバリューチェーンの中に必要不可欠なポジションを獲得することでお客様とともに成長し、安定的な収益基盤の確立と企業価値の最大化に努める。

5. 参考資料

設備投資・減価償却費・研究開発費



azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心・快適・達成感」を実現する
とともに、地球環境に貢献します。

